

山形県高畠町とは

人口 約21,000人

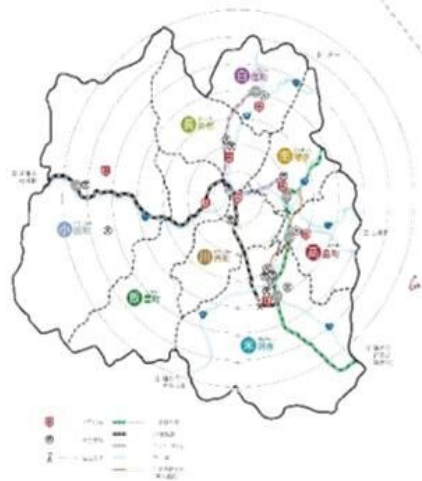
東京駅から新幹線で2時間15分

1973年、近代農業が推奨される時代に地域環境を大切にするため高畠町有機農業研究会を地域の若手農業者が立ち上げた。**有機農業**の分野では全国でも注目を集め、現在も有機農業水稻栽培面積は山形県内でトップを牽引し続けている。

また、県内でも**食品加工業**が特出している地域であり、ジャムやドレッシング、ワイン、日本酒などが製造され、全国の百貨店等でも人気のあるものが多い。ここ数年、JR東日本と連携し、海外への販路拡大（輸出）とインバウンド拡大に挑戦している。

近年、町の次世代リーダーを育てる**人財育成事業**が始まり、県外から住所を異動せずに地域内の学校に転入できる**デュアルスクール**の導入など、地域内外の人との交流事業が広がっている。

まちづくりは、ひとづくり。面白い人たちが集まり地域を創る。



人財育成を軸とした官民協働のまちづくり ～日本一 人を育てるまち～

高畠町は人口減少が進み、2024年に消滅可能性自治体に追加されました。町は行政主導のまちづくりに限界を感じ、町民、企業、行政が協力する新たなアプローチを進めています。「官民協働のまちづくりプラットフォーム」の組織化を見据え、地域課題解決のための起業・創業支援、県外生との交流による小中高連携による町教育の魅力化、子育て支援の3つのプロジェクトを先行的に立ち上げ、官民協働による持続可能なまちづくりを目指しています。

課題
や現状



解決策や
アイデア



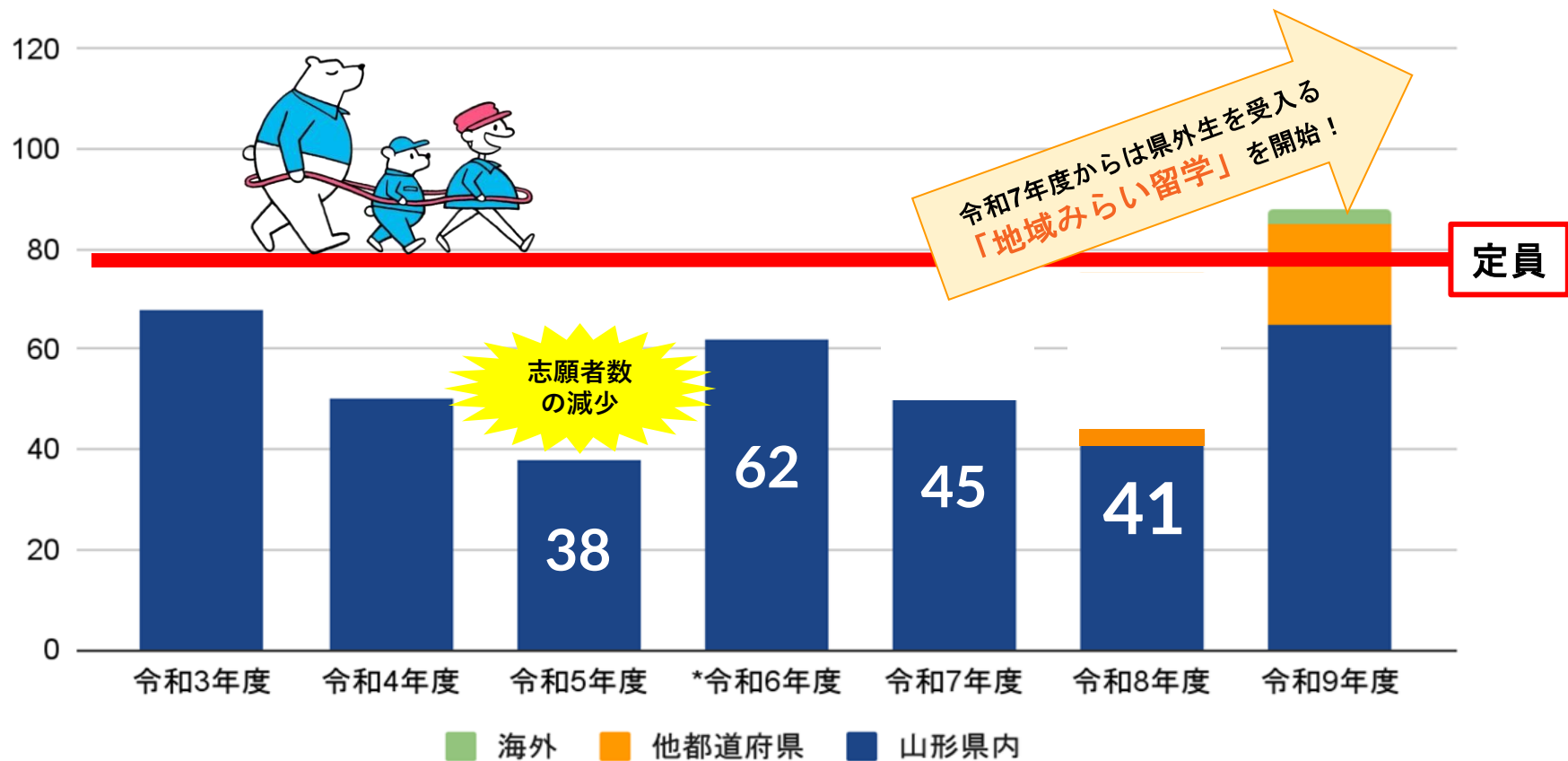
取組状況
や成果

- 複雑化する地域課題。行政依存。情報共有や協働を促す町内規模のプラットフォームがない（取組①）
- 経営者の高齢化、後継者不足、既存の仕組みでは他分野連携が起こりにくい（取組②）
- 地域の魅力を知らずに若者が域外に流出、出生率も年々減少し年間100人を切る（取組③）
- 核家族化が加速し地域内の連携が希薄に。子育てが孤独なものになる危険性が高まる（取組④）

- **行政主導から官民協働のまちづくりへ。プラットフォーム組織化へ。（取組①）**
- **地域社会・産業を牽引する次世代リーダー経営人財の育成事業（取組②）**
- **県外生との交流や大学との連携による高畠町ならではの教育の確立と魅力化（取組③）**
- **地域社会全体で子育てを応援する環境と機運の醸成（取組④）**

- 官民協働のまちづくりプラットフォームの設置により、地域課題・資源の共有化（取組①）
- 町内企業、まちづくりに関わる各団体（商工会、観光協会等）の幹部の若返り化（取組②）
- 地域の魅力の再発見、地域愛の醸成、地方の教育機会較差の解消（取組③）
- 子育て世代を支援するネットワークの構築、子育て世代のライフパフォーマンスの向上（取組④）

高畠高校志願者数



県立高畠高校 × 東京大学FS で取り組む課題

県外生へ「高畠ならではの学び」の魅力を伝える！



MAIN MISSION – 主な活動

学び場「はたまる」での
学習・進路支援（必須）

対象：中学生・高校生

放課後のオンライン交流を通じた学習サポート、大学生活や進路に関する悩み相談。現地訪問時の対面交流企画。

プログラムの中核となるミッションです。

OPTIONAL MISSION

– 任意・条件付き



「高畠ゼミ」での探究学習支援
（スケジュールが合う方のみ）

対象：高校生

地域外からの志願者増加を目指す
PR・SNS発信の伴走支援。

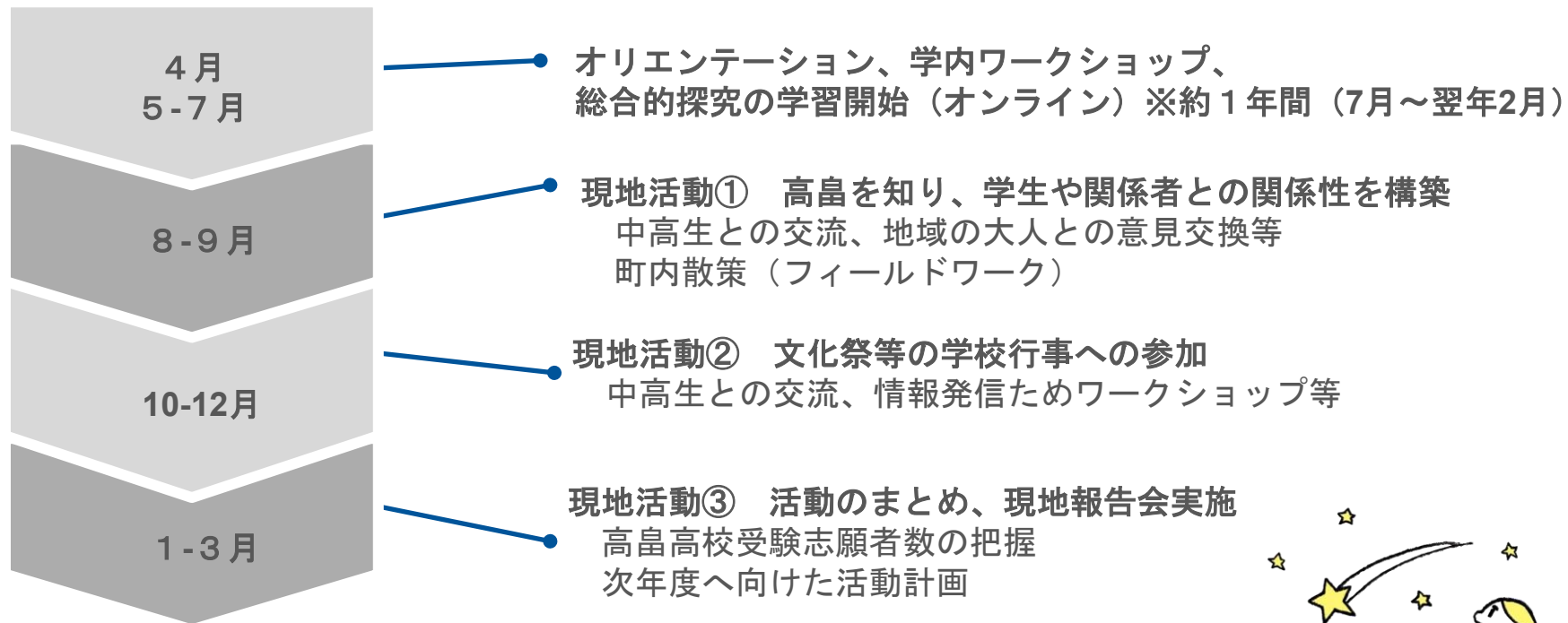
【参加条件】

ゼミの活動時間帯と、自身の大学の空き時間が
合致する方のみ参加とします。無理な参加は
求めています。

高畠高校の町内外、県外の志願者数を増やす！



2026年度東大FS 事業スケジュール（予定）



※関係者（役場、学校、学生）合同定例MTGは、月1程度で開催
※関係者間の連絡は、LINEグループやGoogleチャットを使用する

